

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300404		
法人名	株式会社ケアブレーンズ		
事業所名	なじみ山根(グループホーム)		
所在地	〒963-0111 福島県郡山市山根町12-25		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の意思・主体性を尊重し、お一人おひとりが、今まで暮らしてきた生活環境を大きく変えることなく、その人らしい生活ができるよう家庭的な環境の中で、安心・安全に生活できるよう支援している。また、医療関係者との関係を強化し職員一人ひとりが、やりがい・目標を持って働けるよう、スキルアップの向上、人材育成に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所理念に沿ったサービスを全職員で提供するため、各種会議やミーティングの中で利用者へのサービスのあり方等について確認を周知徹底し、利用者の持っている能力を生活の中で発揮しながら安心して生活できるよう支援している。
2. コロナ禍で職場外派遣研修が困難な中、職場内研修を計画的に実施し、テーマごとに職員が講師を務めスキルアップを図りながら、利用者の思いを大切にサービス提供を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ、事業所内のフロアに掲示している。常に職員全員が目につく場所にあり、会議等で繰り返し確認することで共有化を図り、利用者本位の生活が出来るよう、支援に努めている。	理念を常に確認できるよう事業所内に掲示し、理念に沿った支援に取り組んでいる。また、会議の中で理念を唱和し確認しながら共有し、全職員で利用者主体のサービス提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の各種行事(敬老会・文化祭・清掃)に積極的に参加している。本年度は、コロナ禍で地域の各種行事は自粛されている。	地区の町内会に加入している。コロナ禍の中で、感染防止から地域・事業所が共に交流を自粛している。コロナ禍以前は、地域の各種行事に積極的に参加し交流を深めていた。今年、10月より地域の清掃活動の再開が決まり参加を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所交流スペースを開放し、地域の方々に事業所内の様子を自由に見れるようにしていることで、認知症に対する理解をして頂いている。 ※コロナウイルスの影響により自粛		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍のため2ヶ月毎に運営推進会議委員に書面や広報で利用者の生活状況や事業所の現状を報告し、委員から励ましや意見をいただき、運営に活かしている。	運営推進会議は定期的に書面で開催している。コロナ禍が落ち着いた6月は事業所内で開催したが、現在は再度書面開催としている。委員からは資料を手渡した際に意見や要望を聞き、運営に反映している。利用者及び家族の運営推進会議への参加は得られていない。	運営推進会議に利用者・家族の参加を得て、意見や要望をいただき運営に反映することが望まれる。また、委員からアンケートや書面等で意見や要望を把握できる工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者及び責任者が、事業所の実状や利用者状況を報告し、情報交換をして協力関係を築いている。	市担当者とは、Web上で入退居状況やコロナ罹患報告等を行っている。また、介護保険等の相談や情報交換をおこないながら協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、事業所の経営理念・方針に基づき、社内研修等で身体拘束の理解を深め全職員に意識付けし、身体拘束や不適切なケアの未然防止に取り組んでいる。	職場内研修会や全体会議の中で、身体拘束の具体的な行為やその及ぼす影響について確認しながら、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を中心に職員アンケートを実施し、身体拘束や不適切な対応をしないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	社内研修やミーティング等で話し合い、繰り返し学ぶ事で、虐待に関する知識・意識を高め、日頃から細心の注意を払い、小さなことでも見逃されることのないよう虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	社内研修や講習会を開催し学ぶ機会を設けている。必要に応じ関係者と話し合い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相手の立場や、状況を重んじ、抱えている不安や疑問を訪ね、一つひとつ理解・納得していただいたか確認しながら契約の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、新型コロナウイルスの影響で必要以上の面会を制限している。主に責任者がご家族へ連絡し、悩み・相談を受け職員全体で共有している。	利用者からは、日頃の関わりの中やケア場面、入浴の際に意向や思いを把握しサービスに活かしている。家族からは面会や利用者の生活状況報告時に意見をいただき、いただいた意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に年2回、個人面談を実施し、また希望により随時、職員の悩み・意見・提案に積極的に耳を傾け働く意欲や質の向上に努めている。	管理者は、会議や日常のケア場面で職員の意見や希望・悩みを聞くよう努めている。また、個別面談を定期的に行い、職員の希望や意見・要望を把握し、それを運営に反映している。法人代表者も会議に出席し職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に応じた勤務条件を整備し、勤務状況・実績・自己評価・昇給実績・人事考課も含め給与を検討している。また、職員個々の目標を確認し合い、向上心を持って働けるよう配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ミーティング等で勉強する機会を設けている。また、社外研修年間予定表に基づき、多くの職員が積極的に参加できるよう計画を立て、学んできたことをミーティングで発表してもらい、職員一人ひとりの技術、知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県連絡協議会に加盟している。 常に事業所間で情報交換しており、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用、サービスを利用して頂く前に、必ずご本人と面会し、少しでも不安を解消できるよう要望や思いに耳を傾け、安心して生活していただけるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用、サービスを利用して頂く前に、ご本人とご家族の状況・家庭内の現状に耳を傾け、その気持ちを受け止める姿勢で、少しでも不安要素を解消し、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から伺った思い・状況・状態から現状を把握し、現時点で一番必要とする支援・サービスを見極め、出来る限りご本人の希望を尊重した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな生活環境・自立支援を念頭に置き、自立されている部分はご本人に任せていただき、できないことや困っていることを支援している。共に協力し合うことで、信頼・家庭的な生活を営める関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご本人を中心に考え、ご家族と情報を共有しながら、共にご本人を支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会や外出は自粛していただいているが、利用者の生活状況等を、各担当者による手紙を添えた広報誌や電話で報告し、関係が途切れないよう支援に努めている。	現在は感染症対策を施し、家族の希望により居室で面会が出来るよう取り組んでいる。また、家族等には利用者の生活状況を電話での報告や、担当職員がコメントを記した広報誌を送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者個々の性格や状況把握に努め、職員が介入し、孤立することなく利用者同士が共に支え合い関わりを持てるよう環境作り、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス(利用)が終了しても、関係を保ち、必要に応じ相談を承り、相談や支援が出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の気持ちに寄り添い、日常会話や家族からの情報を基に、全職員で確認しながら本人の意向や希望を大切にした支援に取り組んでいる。意思疎通が困難な場合は、表情や行動から意向を汲み取り、本人本位に検討している。	日常生活の中での会話や利用者のさりげない言動に耳を傾け、意向や思いを大切にした支援を実践している。意思疎通の難しい利用者には、表情や日頃の行動、家族からの情報を基に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活習慣や暮らし方、利用していたサービス支援等をお聞きし、できるだけ継続した馴染みの暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活パターンや心身の状態をご家族からお聞きし、できるだけ以前と変わることなく生活していただけるよう常に職員全体で情報を共有し、総合的な見方で、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人を中心に全職員が関わり、計画作成担当者がご家族からニーズをお聞きし、アセスメントした結果を基に会議で検討。現状に合わせた利用者本位の計画書を作成している。また、心身状態の変化に合わせ、モニタリング調査・計画書の見直しを行っている。	担当職員が提供するサービス状況を基に、計画作成担当者がカンファレンス・モニタリングを実施し、利用者の状況に応じた介護計画を策定している。心身の状態変化時は家族の意向を基に職員で話し合い現状に応じた見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果は毎日個別記録に記録し職員間で情報を共有している。また、心身の変化や気づき等があれば会議で話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身の状態に合わせ、ご本人・ご家族と話し合い、状況に合わせた臨機応変で柔軟なサービスに取り組めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、お一人おひとりが地域と関わり、繋がりが持てるよう努めている。 ※コロナ禍の為、制限している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者が協力医による往診を利用している。また、医療連携を結び、週に一度訪問看護師が来訪し、常に家族・医療・事業所で情報を共有することにより、迅速で適切な対応を受けられるよう協力体制を構築している。	コロナ禍前はほとんどの方がかかりつけ医を受診していたが、現在は家族の方に了解を得て全利用者が協力医による月2回の往診を受けている。受診結果は異常がある場合は、医師が直接家族に電話連絡している。職員は、申し送りノート等でその日のうちに情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々心身の変化を記録に残し、週に一度、訪問看護師が来訪した際に状態報告及び相談をし、適切な対応と指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、入院時情報提供シートを作成し、安心して適切な治療が受けられるよう病院関係者と情報交換を行い、早期に退院できるよう努めている。 ※現在はコロナ過により電話やFAXでのやり取りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に係る方針」を説明し同意を得ている。看取り対応に移行した場合は、家族・医療・事業所の三者で密に話し合い、終末期の計画プランへ変更、全職員で情報を共有し、看取り計画を基に支援に取り組んでいる。	契約時に、利用者・家族へ「重度化した場合における対応に係る方針」を説明し同意を得、状態変化時にもその都度説明し同意を得ている。医師の判断により看取りケアを行う場合は、家族・事業所・医療機関と連携し、看取り計画を基に支援している。また、看取りや急変時の勉強会や対応訓練も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員で定期的に急変・事故発生時を想定した訓練を実施している。マニュアルに沿った対応が円滑に行われているか都度確認し、それを周知させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	消防署指導による総合訓練は年一回実施。また、防災委員会が中心となり、月に一度様々な状況を想定した防災訓練を実施している。また、全事業所合同の巨大地震を想定した訓練を実施し、日々災害対策の訓練を行っている。	総合訓練は年2回実施し消防署へ報告書を提出している。コロナ禍で運営推進会議委員や地域住民の参加は行っていないが、月1回の防災訓練は実施している。非常用備品は3日分の食料等が備蓄されている。ハザードマップの中に職員の居住地も掲示され対応策に取り組もうとしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念を念頭に置き、言葉・態度・接遇に配慮している。職員同士で注意し合える環境をつくり、利用一人ひとりの人格を尊重した接し方を心掛け、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように十分注意している。	内部研修・全体会議等で職員のスキルアップを図り、利用者一人一人の経験や思い・性格・人格を考慮し、その方らしく居られることを大切に接し方を心掛け対応している。個人情報関係書類は、事務所内書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	積極的に声を掛け、意思や希望を表出しやすい接し方に努めている。意思表示が難しい利用者に対しては、表情・動作から意思や希望を察知するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならぬよう職員全員が常に心掛け、お一人おひとりの望み・意向を尊重した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日を気分よく過ごしていただけるよう、その人らしく身だしなみやおしゃれができるよう常に気を配っている。定期的に事業所内で散髪を行う際には、自身の希望をお伺いし散髪していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事を楽しめるように、利用者と職員と一緒に味付けや味見、下拵えをしながら食事の準備を行っている。誕生日には好きな献立を提供し、嗜好は日常会話や家族から情報を得て把握している。 ※コロナ過により、同テーブルでの食事は控えている。	全事業所共通の献立で管理栄養士が半月分ずつ作成している。職員と利用者が一緒に調理したり、食事の準備などの手伝いを行い、また誕生日や行事のメニューは利用者の好きな物を事業所独自に作成し、食事を楽しめるように支援している。事業所の焔で作ったものも食材として使用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常日頃から積極的に水分摂取を促している。利用者の体調を観察し、一人ひとりの現状に合った量・形状・介助法・食器の工夫等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声を掛け、口腔状態・本人の力に応じた口腔ケアを対応・支援している。 ※月2回、歯科往診		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や生活習慣、仕草・表情から意向を汲み取り、プライバシーを守りながらトイレへの声かけ誘導を行っている。訴えが困難な利用者には、定時誘導等で対応している。	定時誘導と排尿・排便の回数・水分摂取量等の記録を参考に、生活習慣、仕草・表情から利用者の意向を汲み取りトイレ誘導を行い、プライバシーにも配慮しながら排泄の自立支援に取り組んでいる。また、オムツなどの排泄用品を含め利用者の状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師に相談・指導を仰ぎ、終始こまめな水分補給の促しをしている。便秘が及ぼす身体への影響をミーティング等で職員に伝え対応に活かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。入浴前には必ずバイタルチェックを行い、本人の様子や希望を伺い対応している。毎月(月末3日間)温泉紀行と名打ち、好みの入浴剤を使用し入浴していただいている。また、季節に応じて菖蒲湯・柚子湯等を行い楽しんで入浴していただけるよう支援している。	週3回利用者の生活習慣や意向を伺い、入浴時間等も個々に対応し、体調等に留意して入浴支援を行っている。全員が湯船に入り身体も自分で洗う等、自分で出来ることを大切にしている。入浴剤を使用したり、菖蒲湯・柚子湯等で季節感を味わったり、会話を楽しむなど、快適な入浴時間を過ごせるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は利用者の希望により自室やフロアで休息されている。個々の習慣を大切にしており、眠くなるまでテレビを観たり、お話を伺い安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方箋をファイリングし、職員全員が内服薬の重要性を理解できるよう努めている。内服薬に変更があった際には、その後の様子を記録し、訪問看護師・往診医師に報告・指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのペースに合わせ家事手伝い・レクリエーションの参加促し、その時々個々に合わせた対応をし楽しみごとを持ち気分転換ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響あり、外出は控えている。施設内にある中庭や畑の様子を見に行かれたり花壇の草花を鑑賞していただき気分転換ができるよう支援している。また、室内での体操や歌、おやつ作り等レクリエーションに変化を持たせ支援している。	現在は、敷地内の散歩をし畑の様子を見たり花壇の草花を鑑賞したり、中庭に出たりと気分転換ができるように支援している。家族との外出は制限していないが、家族の方が控えている状況なので、今後は買い物や外食も計画しどのようにしたらできるか検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により、数千円程度のお金を所持している利用者はいるが、常ご家族へ確認し必要物品・購入のお伺いを立てながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話の使用、手紙のやり取りは自由にできるようにしている。携帯電話を所持している利用者もおり、家族理解の下、いつでも電話のやり取り可能な利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節に沿った壁画作品・花等を飾り季節感を楽しんでいただいている。また、畳のスペースもあり自由に寛いでいただけるよう工夫している。感染対策、換気やアルコール消毒、温湿度の管理は常時、職員が行っている。	共有空間には、利用者と職員の共同作品や花、行事の写真等季節を感じるように飾られている。読書、編み物、塗り絵等好きなものに取り組み穏やかに利用者同士寄り添い過ごしている。室温・温度・換気・消毒等快適に過ごせるような環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士が同じテーブルで楽しく過ごせるよう座席の配置を工夫したり、お一人になりたいときは自室で過ごされたり、都度様子を見ながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅で愛用していた物を持ってきていただいたり、お孫さんの写真を飾ったりと、お一人おひとりの思い出を大切にしている。安心して過ごして頂けるよう、居心地の良い環境作りに努めている。	居室には自宅で使っていた馴染みのある家具や家族写真等を利用者や家族の希望で配置され、プライバシーが守られ安心して過ごせるような環境や洗濯・洗濯物干し・取り入れ・たたみなど、今までの生活を継続できるような支援も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員が見守り少しでも自立した生活が維持できるよう工夫し支援している。風呂場・トイレに表示を設置し分かり易く工夫したり、歩行経路を十分に確保し危険箇所、歩行の妨げになる物はないか常に配慮している。		